

## 茂原市学校再編基本計画説明会 概要

- ・日時 平成29年5月14日（日）14時～15時20分
- ・場所 市役所市民室
- ・市出席者 内田教育長、中村総務部長、豊田教育部長、久我次長(教育総務課長)、  
学校教育課 鈴木課長、村澤主幹、平井主幹、野口係長、  
教育総務課 川崎補佐、東間係長、沼
- ・一般参加者 26名
- ・他出席者 教育委員4名、前審議会委員5名

### 【14:01開会】

- 川崎補佐 : 資料確認、開会
- 内田教育長 : あいさつ
- 久我次長 : 基本計画説明

### 【14:32質疑】

- 質問者1 (本納) : 地域コミュニティや避難所についての配慮をどう考えているか。  
再編は子どものためということをよくわかるのでぜひ進めてほしいが、直接子どもに関わらない地域住民にとっては、地域の集会所等の心配がある。
- 久我次長 : 茂原市の二次避難所にはほとんど学校施設が入っている。ご質問のとおり、避難場所というのは確保しなければならない。統廃合後の跡地や施設の利用については、全庁的に議論をしていく。
- 質問者2 (高師) : 学校の教員というのは茂原市でなく千葉県の職員だが、学級に対する教員数の摺り合わせは具体的にどうやるのか。
- 鈴木課長 : 現在の学級の児童生徒数は、千葉県の弾力的な運用で小学校1年生から3年生、中学校1年生は35名、それ以外は38名が上限となっている。  
教員の配置は、学級数に応じてプラス何名というように決まっておき、学校を統合するとその基準に従って教員が配当される。統合した次の年に関してはプラス何人かの教員が配置されるが、数年のうちに一般的な配置基準に従った教員数になる。
- 質問者3 (茂原西) : 豊田小の児童生徒数推計で、2025年から35年で児童数が1割強の減に対してクラスが半減しているのはなぜか。
- 鈴木課長 : 先ほど申し上げた、小学校1年生から3年生までは35名、小学校4年生から6年生は38名という基準に従って計算した結果、ちょうどその境目のところにあるとご理解いただきたい。
- 質問者4 (小林) : 通学手段について、基本的に今は集団登校だが、環境は日々変化しており、どんなに保護者がいろいろなスポットに立って見ているとしても難しいことがある。登校手段を各家庭の判断にして、集団登校、車で送る、親子で一緒に歩く等、個人個人の判断が尊重されるようにしてほしい。
- 鈴木課長 : 学校再編を行うにあたり通学のバスということが考えられるが、今後審議会でも検討する事項なので、この場では差し控えさせていただく。  
学校現場では、昨今世間を騒がせている様々な事故等があるので、やはり集団登校が一番安全であろうと判断している。  
各家庭の判断ということだが、必ずしも各家庭が同じような環境でないのが今の方法が良いと思うが、学校の方と相談されたい。
- 質問者4 (小林) : 各家庭の考え方が尊重されるという前提がないと、子どもの間でもずるいとかいふ雰囲気になるので、配慮をお願いしたい。
- 豊田部長 : これから学校とか審議会の中で検討するので、意見として頂戴する。

- 質問者 5  
(茂原) : まず、茂原市の小中学校の適正規模は、文科省のものと異なるのか、結果的に同じなのか。
- 次に、9月を目途に実施計画を策定とのことだが、2025年の推計では小学校だと6クラスになるところも相当出てくる。どこまで踏み込んでいくのか。
- 最後に、小中一貫の検討とあるが、西陵中と緑ヶ丘小も統合を検討されたと思う。その検討した結果やはり西陵中は廃校という結論を出されたと思うが、その辺をお聞かせいただきたい。
- 豊田部長 : まず適正規模は、文科省は小中学校とも12～18学級、茂原は中学校を9学級からとしている。中学校については教科ごとに先生がいるので、9教科に最低1人ずつの先生がつくように定めた。
- 実施計画については、平成29年からの4年間とそこからの5年間という、一次と二次の実施計画を作る。資料9の基本的な方向性に学校を当てはめて、いろいろな状況等を勘案し、そして地域の方々と話をして決めていく。当然学校の名前も入ってくる。
- 小中一貫については、まずは小学校がいくつか集まった中で切磋琢磨できる環境を作ることを考えるので、緑ヶ丘小と西陵中とは意味が違うが、地域の特性が現れたりするような地区があったら検討していこうと考えている。
- 質問者 5  
(茂原) : 西陵中のように入学した子が卒業するまでと考えると、小学校だと廃校まで6年かかるが、どのようにするのか。
- 内田教育長 : 基本的に統合するときには1年生から6年生まで一緒に学校が変わることになると考えている。
- また、小中一貫校について、緑ヶ丘小と西陵中を一緒にしてもずっと単学級であるということは解消されないので、今回は取り入れなかった。
- 質問者 2  
(高師) : 地域社会を大事にということと、学年・クラス編成と、どの辺で折り合いをつけるのか。
- 久我次長 : 学校が地域と密接な関係にあるというのは間違いないし、茂原市が旧町村の9つのブロックという意識がまだ色々な面で残っているというのは否めないが、少し考え方を柔軟にし、できるだけ近くの学校に行くような学区の見直し等も含め将来ビジョンを考えなくてはいけない。
- 学校と地域のあり方というのは柔軟に解決しなくてはならないが、子どもたちにとってどうあるべきかというのが大前提になる。
- 再編にあたって庁内調整を図る事項もあり、いろいろな情報を保護者や学校側に提示したうえで、その意見の集約を図っていきたい
- 豊田部長 : 学校再編審議会は公開で行い、資料や結果については、逐一ホームページで報告する。
- 質問者 6  
(五郷地区) : 自分の母校が閉校してしまうのはとても残念だと思う。なるべく早く統合される学校の道すじ、将来的な方向性を、細かく発信していただきたい。地元以前から住んでいる人は、自分の子どもを自分の母校に通わせたいという気持ちが強くあると思うので、どういう審議をされて、こういう結果に至って仕方なく閉校となるのか、アンケートも細かなところまでして、該当する子どもたちや地域の人に意見をしっかり聞いていただきたい。
- 豊田部長 : 再編にあたっての配慮ということで、できるだけ早く情報発信する。計画はこれから審議していくが、早い段階で地域住民の方たちとの意見交換をさせていただく。

【15:26閉会】